

令和5年1月19日 発表

中小企業月次景況調査結果

令和4年12月分

～令和4年12月 データから見た業界の動き～

令和5年1月19日 発表

行動制限のない年末でも、景況感は低調
収益状況の悪化、人手不足により事業継続の危機感増大



山梨県中小企業団体中央会

〒400-0035 山梨県甲府市飯田2-2-1

TEL 055-237-3215 FAX 055-237-3216

<http://www.chuokai-yamanashi.or.jp/>

～令和4年12月 データから見た業界の動き～

令和5年1月19日 発表

行動制限のない年末でも、景況感は低調

収益状況の悪化、人手不足により事業継続の危機感増大

■ 概 況

12月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で

売上高 ▲6ポイント（前年同月比14ポイント↓）

収益状況 ▲16ポイント（前年同月比4ポイント↓）

景況感 ▲10ポイント（前年同月比2ポイント↓）となり、すべての項目において前年同月を下回った。

業種別で、製造業では…

売上高 ▲5ポイント（前年同月比15ポイント↓）

収益状況 ▲30ポイント（前年同月比15ポイント↓）

景況感 ▲25ポイント（前年同月比15ポイント↓）となった。

製造業ではすべてのD.I値が前年同月の数値を下回った。「発注元の生産調整の影響で組合員全体的に受注量の減少が続いている（業務用機械器具製造業）」、「部材・電力価格の高騰によって発注が抑制され、稼働率の低下が著しい（電気機械部品加工業）」など、売上・仕事量が低調で、先行きの見通しは良くない状況が伺えた。

非製造業では…

売上高 ▲7ポイント（前年同月比14ポイント↓）

収益状況 ▲7ポイント（前年同月比3ポイント↑）

景況感 ±0ポイント（前年同月比7ポイント↑）となった。

非製造業では売上高D.I値が前年同月を下回ったが、収益及び景況感は僅かに前年を上回った。

「例年ほどではないが、年末の需要増加により仕事量は若干増加した（運輸・トラック業）」との報告があった一方、3年ぶりとなる行動制限なしの年末であったものの、売上げ・仕事量の回復は想定通りとはいかなかった様子が小売業を中心に伺えた。

「深刻な人員不足により警備員を確保できない（警備業）」と、仕事量が回復してきた業種においても、人手不足により受注を抑制せざるを得ない状況も報告がされた。

中央会では月次景況調査対象50社に対し、組合員や業界の2023年1月～3月の景況感・先行きなどについて聞いたところ、37社（50社中の有効回答数）より回答を得た。先行きが「良い」との回答は食品製造業の一部で2.7%、「どちらでもない」は43.3%、「悪い」が54.0%と大半が慎重な見方となった。

行動制限がなく、外国人の渡航規制も解除されるなど経済活動が回復する方向にあるが、日本銀行の発表では2022年の企業物価指数は過去最高の9.7%上昇したとされ、企業の間で取り引きされる全てのモノが上がり続けている。中小企業者は取引先からの理解が得られず、原価上昇分の全てを販売価格に転嫁することができずに、収益確保が難しくなっている。

また、経済回復の足かせとなるもう一つの要因として、深刻な人材不足が伺えた。

受注量調整では済まされず、「人手不足による廃業も多い（介護業）」と事業の継続を断念する例もある。

大手企業では賃上げの機運が高まっている一方、収益の確保も難しく経営資源が脆弱な中小企業者にとって賃上げは容易ではなく、大手企業との賃金格差は広がり、今後も人材の確保は困難な状況が続くと予測される。

適正な収益の確保と人材確保に関する支援が今一番求められている。

■ 調査員からの国等への要望・コメント ピックアップ!

工事や一部の建設関連コンサルなどを除く公共調達では、一般・指名競争共に落札者の決定は価格のみである。「価格のみの競争」は時として行き過ぎた低価格入札を生み出すとともに、品質のよいものを作ろうとする企業努力を損ない、品質の低下を引き起こす可能性もある。物品・役務についても個々の事業者の創意工夫や技術や品質についても評価した入札・契約が望まれる。

業界からのコメント

● 製造業

食料品 (水産物加工業)	居酒屋・ホテルの業務用商品の売上げは、コロナ規制緩和で人流が活発となったことで堅調に推移しているが、ギフト、おせち関連商品の売上げは、原材料価格の高騰による前倒し受注の反動により前年同月と比べ減少した。
食料品 (洋菓子製造業)	量販メーカーでは、店舗拡大効果及びクリスマスケーキの売上げが好調だったことから、前年同月と比べ売上げ114%増加となった。
食料品 (パン・菓子製造業)	原材料・電力価格の高騰分を商品単価に完全に転嫁できていないため、来年は商品の価格改定や利益が出る商品を企画する。
食料品 (酒類製造業)	ワインは嗜好品であるため景況感が良くなると売上量も伸びない。今後の見通しは暗く、どうすれば明るい未来が見えるのか見当がつかない。
繊維・同製品 (織物)	行動制限は撤廃されているものの、コロナウイルスの感染拡大を警戒している。
木材・木製品製造	前年同月と比べ売上げは倍以上の増加(+221%)となったが、一時的なものと考えている。1月以降も仕事量は確保できるが、電力価格の上昇が尋常でなく、製品価格への転嫁もできないため収益確保が困難な状況が続くと予測している。
家具製造	一部商品の販売価格の改定を行ったことで、前年同月と比べ105%の売上げとなった。
紙製造業	原材料・電力価格の高騰分を商品単価に転嫁できておらず、前年同月と比べ売上げは▲15%となった。客足もコロナ以前まで回復しておらず、今後も厳しい状況が続くことが予測される。
窯業・土石 (砂利)	例年に比べ工事量が少なく進捗も遅れ気味。骨材価格は上昇するも、燃料等の値上りによって収益は減少し、前年同月と比べて収益状況は▲10%となった。
窯業・土石 (山砕石)	電力や燃料、消耗品等の価格が値上りしているが、製品価格への転嫁が進まず、前年同月と比べ売上げ▲6%、収益状況▲8%となった。
鉄鋼・金属 (金属製品製造業)	渡航規制の緩和により海外出張ができるようになったことから、前年同月と比べ3%の売上げ増加となった。
一般機器 (業務用機械器具製造業)	9月頃からの生産調整の影響で業界全体で受注量の落ち込みが続いているうえ、原材料価格の高騰もあり、前年同月と比べ売上げ▲5%、収益状況▲6%となった。
一般機器 (生産用機械器具製造業)	前年同月と比べ12%の売上増加となった。1月の納品から原材料価格の値上り分を販売価格に徐々に反映していく。
電気機器 (電気機械部品加工業)	部材の納期が遅延しており、製造期間が伸びている事と、部材・電力価格の高騰による発注者の様子見が稼働率の足かせとなっている。
電気機器 (電気機械部品加工業)	受注量が低下し、原材料、電力、工具等の価格が値上がりしており、売上げ、収益状況ともに前年同月と比べ▲15%となった。
宝飾 (研磨)	BtoB(国際宝飾展など)だけでなくBtoCの展示会の活性化が必要である。また、渡航規制が緩和されたものの、中国を中心としたインバウンド消費が伸び悩んでおり、前年同月と比べ売上げは▲20%となった。
宝飾 (貴金属)	12月は受注量、受注金額ともに前年同月に比べ多く、売上げも安定していた。

● 非製造業

卸売 (自動車中古部品)	廃車の発生台数が少なく、同業他社との価格競争の影響もあり、前年同月と比べ売上げ、収益ともに▲40%となった。1～3月は納車遅れの改善に期待している。
卸売 (ジュエリー)	OEM(受託開発) / ODM(受託製造) について、原材料価格の高騰によってクリスマス需要に向けた企画商品の販売価格が上昇しており、受注数量、受注金額共に昨年を下回っている。催事販売について、コロナ第8波により集客が厳しいが、購買単価が上がっており販売額的には昨年並みに推移している。昨今の円高傾向で金やプラチナの相場が下がり始めているが、主要な原材料に変化はない。中国のコロナウイルス感染が拡大しており、インバウンド需要や海外販売は先が見通せない状況である。物価上昇と金利高騰により消費者の購買意欲は低くなっており、特に若年層のジュエリー消費は厳しい状況が続くことが予測される。
小売 (青果)	コロナ規制が緩和されたものの業界への影響は少なく、お歳暮、お年賀の需要も縮小気味であり、こぼし等の動きも芳しくない。野菜の価格も暖冬の影響で安値で推移している。
小売 (食肉)	コロナウイルス感染者数の高止まりが続いているが、宿泊施設の客足は全国旅行支援により回復傾向にあり、1月も堅調に推移すると予測している。一方、飲食店は忘年会が少なく、売上げが低迷しており、引き続き厳しい状況が見込まれる。
小売 (水産物)	商品単価の値上がりが今後も続く予定。更なる消費者の購買意欲の低下、景気悪化を予測している。
小売 (電気機械器具小売業)	売上げについて前年同月と比べ4%ほど下回る状況であり特に黒物家電の売上げに伸び悩みが見られる一方、冷蔵庫洗濯機などで大型化が進んでおり販売価格の押し上げに繋がっている。物価上昇の影響で消費者が家電の買換えを躊躇することが予測されるため、先行きの見通しは暗い。
小売 (事務機小売業)	メーカー希望小売価格の改定を受けて、商品販売価格の値上げを行った。
小売 (ガソリン)	原油価格は年末一時80ドル/バレルを割り込み、為替も130円台前半で推移していることから原油の調達コストは下がっている。燃料価格激変緩和対策事業について、政府発表では2023年1月より現在の補助上限35円から段階的に減額していく方針が示されており、石油業界としては政府の動向を注視している。
商店街	組合が管理する駐車場の売上げは12月に入り回復傾向にあるが、コロナウイルス感染拡大や、物価上昇による消費活動の停滞により、各店の売上減少が深刻である。前年同月と比べ売上げ▲29%、収益状況▲27%となり、今後も厳しい状況が続くことを予測している。
宿泊業	全国旅行支援策により売上げは増加傾向だが、今後のコロナウイルスの感染状況、物価高騰がどのように影響を与えるのかが不安材料である。また、どの施設も人員の確保に苦悩している状況である。
美容業	コロナウイルス感染者の増加や物価高騰による経済全体の冷え込みから、来客者数の減少、回転率の鈍化がみられ、業界の景況も徐々に悪化している。
一般廃棄物処理	新車を購入しても納車までに相当の期間を要しており、プラスチック資源新法による自治体の事業が今年度よりスタートしている中で配車への影響を懸念している。
警備業	11月に引き続き、土木・建築工事関連の警備員の需要は多く、年末商戦によりイベント系警備の依頼も増加したが、深刻な人員不足により警備員を確保できないために受注を抑制せざるを得ず、前年同月と比べ売上げ▲6%、収益状況▲3%となった。 人員が確保できれば、稼働率を上げることができ売上げも増加に転じることから、各組合員は人材募集に力を入れているが、応募者が少ない上に、応募があっても警備員の資質に欠けていたり、適性があっても辞退するなどの状況が続いている。

建設業 (総合)	12月の県内公共工事動向は、前年同月に比べ、公共工事の件数は8%減少、請負金額は46%の減少となっている。12月末累計でも件数で5%、請負金額でも9%それぞれ減少している。
建設業 (型枠)	コロナウイルス感染者数、濃厚接触者の増加による人手不足で現場の進行に大きく影響が出ている。 また、職人の高齢化が進み、人材を募集しても問い合わせはなく、規模を縮小しながら経営をしている会社も多い。 型枠工事の主要材料であるコンクリートパネルを始め材料が軒並み高騰しているものの、元請であるゼネコンが価格競争の末に仕事をとっている影響で高騰分の価格転嫁ができず、今後も収益の確保が困難な状況が続く予想である。
建設業 (鉄構)	鋼材・副資材の価格は高値ではあるものの安定しており、一時期の高騰状態から一服感が見られるが、鉄などの原材料価格は7月に底を打って以降再び値上がり傾向であるため、電力価格も含め原材料のさらなる高騰を懸念している。
運輸 (タクシー)	3年ぶりの行動制限のない年末であったため、ハイヤーの配車件数は前年同月と比べ微増したが、タクシーの稼働台数は少なかった。また、乗務員不足、燃料価格の高騰等により、収益の確保が困難な状況が続くことが予測される。
運輸 (バス)	仕事量は回復傾向にあるが、人手不足のため対応しきれない状況にある。
運輸 (トラック)	年末の需要増加により仕事量は若干増加したが、例年ほどの忙しさはなかった。コロナウイルス感染者数も高い水準で推移しており、従業員にも感染者又は濃厚接触者が発生し、人員確保が難しくなっている。 2023年は景気の回復を期待しているが、業界としては好転となる要因が何一つ見えない。
その他(介護)	訪問介護については、新規の依頼は少なくなったが、既存顧客の利用頻度は高く人手不足が深刻である。創業する事業所もあるが、人手不足による廃業も多い。県の認証(介護施設や事業所が行う人材育成や職場環境の改善等の優れた取組みを評価する制度)を取得したいが、業務の傍らで申請手続きを進めなければならない、余裕がない。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2021/12	2022/11	2022/12	2021/12	2022/11	2022/12	2021/12	2022/11	2022/12
売上高	10	5	-5	7	3	-7	8	4	-6
収益状況	-15	-20	-30	-10	-27	-7	-12	-24	-16
景況感	-10	-30	-25	-7	3	0	-8	-10	-10

※((良数値÷対象数) ×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

